

# シルバ－ 江田島



## 第 6 号

平成7年7月1日

〈発行〉

(株)江田島町シルバ－  
人 材 セ ン タ ー  
江田島町ふるさと交流館内  
TEL (0823)42-5211

平成7年度 通常総会



### 祝 辞 (要旨)

広島県商工労働部長

高見 貞四郎

平成七年度通常総会の開催を心からお祝いたします。

貴センターが平成四年十月の結成以来、堅実に事業を発展させてこられたことに心から敬意を表します。

我が国人口の高齢化は異常な早さで進行しており、高齢者が生き甲斐をもって暮らせる社会の実現、長い間に培われてきた豊富な経験、知識を有効に活用する場としてのシルバ－人材センターの役割はますます重要となってきました。

広島県としても、シルバ－ワークプラザの設置、安全就業対策の推進、家事援助サービス事業、事務系職種就業分野開拓推進事業等の新しい事業の展開を図り、シルバ－人材センターを充実すべく取り組んでいます。

貴センターにおかれても、シルバ－の基本理念である「自主、自立、共働、共助」の精神を忘れず、皆さんが長年培ってこられた経験、知識、技能を生かし活力のある経済社会の維持と地域社会に役立つようなシステムの構築にいつそう尽力されるよう心から願います。また、会員の方々が就業を通して積極的な社会活動により、生き甲斐を手にし、充実した人生を送られるよう願います。ご健康でご活躍されますように。

# 五月期通常総会ひらかれる

五月三十一日、五月期通常総会が町役場三階の会議室で開かれました。

総会議案は四件、詳細は議案書に書かれています。報告の中での特徴的なことを紹介します。

なお、議長は新本さん（小用）でした。



「経過報告」では、江田島町シルバー人材センターになって三年

会員数（7・3・31） 一八二名

受注件数 六一八件

就業率 七七・五%

受注契約額 五二、一三三、九二一円

で、昨年度と比較して就業率は九・八%、就業延人員、三・二%、契約額で六・〇%上昇しています。

また、通勤途上または作業中の事故は四件（前年度五件）でした。

さらに会議等の開催については、

理事会 六回

安全就業委員会 六回

広報委員会 七回

開拓委員会 二回

班長会議 十三回

などが持たれ、シルバー江田島の活

動推進の大きな力となっています。

「定款の変更」については、従来の

の「理事（理事長、副理事長及び常務

## 高齢化社会における 労働行政の施策と現状

広島県高齢者対策担当官 沖田 正 昭

完全失業率が三・二%となり、雇用就業情勢はかつてない厳しい状況となっており、県内の四月の有効求人倍率は〇・六八倍となり、なかでも五十五歳以上の高齢者に対する求人倍率は〇・二倍と、二十人の求人に対し、仕事を探すが百人という、再就職が非常に困難な現状にあります。

今後、労働力人口に占める高齢者の割合が高くなることは、全体として見るとマイナ要素ではなく、高齢者の方々が長年培われてきた経験・知識・技術を活用就業を通じて、多に発揮していただくことにより活力ある社会を維持し、さらに発展できるところです。

このため、昨年「高齢者等雇用安定法」の改正が行われ、平成十年度から六十歳以下の定年を定めることはできなくなりました。また、本年四月からは希望する者全てを六十歳を超えて継続雇用してもらうよう行

理事（二名）を「理事（理事長、副理事長及び常務理事）九名以上一名以内とする」に改めるもの。理由は「年度内に欠員が生じた時に総会をもたなくてもすむから」というもので、全員一致の賛成で決定しました。

政が指導を強めていくこととなっています。

県としまして、これらの高齢者雇用対策を積極的に進めるため「基本方針」を定め、多様な形態による雇用就業の機会の確保ができるよう取り組んでおります。これは、大きく分けて次の三つの柱からなっています。一つには、六十歳定年及び六十五歳までの継続雇用の推進、さらには、安定所における求人開拓等による再就職の促進。三つ目は、高齢期における雇用就業に対する支援としてのシルバー人材センターの育成強化を図ること。この中で

シルバー人材センターの役



割は、今後、高齢者雇用対策の中心的な位置付けとなり、より一層重要となってまいります。

また、人口構成がピラミッド型から、今後つば型に移行することとなりますが、これは、厚生年金の制度との関係での雇用の問題を考慮する必要があります。

今回改正された厚生年金法によりまずと、平成十三年以降、つまり昭和十六年四月二日生まれの世代が六十一歳から支給開始となり、段階的に開始年齢が六十五歳からの支給開始となります。

これらの制度に対応するため、今後は、希望するもの全員が六十五歳まで継続して雇用されるよう、行政として企業指導に努めなければなりません。勤く人自身も高齢期における職業生活について、自らが設計し、高齢期においてその能力を高めるための能力開発をしてもらう必要があります。そこで、助成措置を行うなどをした職業訓練、資格取得等の援助、サービス提供も行っております。

さらに、六十歳前半層での雇用を促進するため、雇用保険法の改正が行われ、六十歳前半層の人が雇用される場合、六十歳時の賃金の八十五%未満となったときは、二十五%の給付金が賃金に加えて支給される制度ができました。また、厚生年金についても、在職老齢年金が二割から八割まで段階的に減額されていたのが、今回の改正では、賃金と年金の

八割との合計額が二十二万円までは年金を八割支給することとなり、それを超えるときは超えた部分の1/2を

カットするスロープ式減額に変わりました。

―記念講演要旨―

## シルバ－江田島の

### さらなる発展を願って

森 修 一

私は、平成七年三月三十一日付で事務局長を退任させて頂きました。

ミニシルバ－時代より五年間、種々の問題がありました。町当局の暖かいご援助、山佐理事長の適切な指導、更に皆様方の絶大なご協力を得ながら、国庫補助団体の指定を受けることが出来、私達元気な高齢者の寄り処となる基礎固めを達成することが出来たと自負しております。

平成二年二月、江田島町に高齢者能力活用協会が設立され、当時の民生課長、故白井幹人氏より事務局長就任の要請があり、当時全く行政とのつながり等もなく、躊躇しておりましたが、会長が先輩の山佐一男氏、副会長が行政出身で、今は故人となられました松脇富士夫氏であり、全面的にバックアップするということが全く未知の世界に飛び込んで行きました。

最初につき当った問題は、受注量と稼働の問題でした。発足当時は民間よりの仕事の依頼は殆んど皆無で、役場からの受注が主でした。片や当時の会員は、発足当初で行政依存の意識の強い方が多く、その意識改革

に苦勞したことがなつかしく想い出されます。

一年を経過した頃より、センターの理念である。高齢者の社会参加、共同共助の意識が浸透し始め、会員数・契約額も徐々に上向き始めました。この頃広島県より町を通じて法人化をめざしたとの指導がありました。当初は広域シルバ－を目ざしましたが、大柿町との協議が不調に終わり、次善の策として町の強力な援助をお願いし、数度の理事会で協

## 就任のあいさつ

事務局長 風呂井 侃

平成二年に高齢者能力活用協会の発足から、シルバ－人材センターの設立まで、多大な功績を残されました森修一事務局長の後任として、四月一日付で就任いたしました。

私は、永年勤務しました江田島町役場を今春退職したばかりであり、突然の重責を引き受けますことに、身の引締る思いがいたしています。

議を戴きながら、準備委員会の設置にこぎつけることが出来ました。法人化するための最低条件、会員数一五〇名以上、年間就労延人日六〇〇〇人日をクリアするための施策については、月間シルバ－五月号で紹介されているとおり、老人会、女性会に積極的にアタックを行いました。

順調に目途がつけかけた矢先、就労中の死亡事故が発生しました。役職員一同更なる安全対策をご霊前におちかいし、前進をはかりました。その結果平成四年十月に国の指定を受け(旧)江田島町シルバ－人材センターとして発足し、順調に発展を行っております。これもひとえに町当局の適切なご援助と、会員皆様方のご協力の賜と深く感謝申し上げます。江田島町シルバ－人材センター設立までを振り返り更なる発展を願って退任のごあいさつとさせて頂きました。

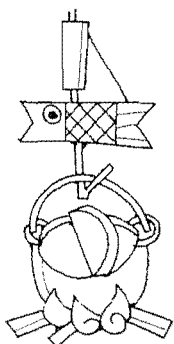
高齢化社会の進展とともに、健康で働く意欲のある高齢者の皆さんが着実に増加し、就業する機会を求める声が大きく高まっています。

こうした要請に応えるため、自主自立や共同共助の理念に立って、地域社会の日常生活に密着した、臨時的かつ短期的な仕事を確保して、これを会員の皆さんに提供することがシルバ－人材センターの役割であり併せて、活力ある地域社会造りに寄与する責務を負うものと考えます。

「生涯現役」、「生涯青春」との人生観を持った、パワフルな高齢者の皆さんが大幅に増加しています。シルバ－人材センターは、高齢者の皆さんの「生きがい」のためだけでなく、高齢者の皆さんが培ってきた貴重な知識・経験が定年という節目で埋れることは、社会的損失であるとの視点に立って、これを社会に生かす役割を担うべきものであります。

シルバ－人材センターが会員の皆さんをはじめ、地域住民の皆さんの多様なニーズに即応したセンターとして活動するよう努力してまいります。

会員の皆さん、また、関係機関各位の今後益々の御指導をお願い申し上げます。



本町では、すでに高齢者比率は、現在二二・二％となっています。

## 刈りこみばさみの 使い方を教わる



四月中旬の金曜日の午後、小用峠近くのカラオケ店の剪定の現場を訪ねました。

着いた時は、それまで伐り取った枝や集めた落葉を鷲部の焼却場に捨てに出るところで、話も聞けず、写真もとれなかったこと、申しわけなく思っています。

剪定は道路際の松や植こみ。

「木曜からかかり、今日で二日目。

松の剪定は新芽が出ているので少し遅いのですが、新芽をとらないように慎重にしなければならぬので。」

作業は男性二人、女性二人の四人

「八月に新芽を取って捨てると新しい芽が出てきます。この芽から出る葉は短い。こういうのを盆栽づくりといえます。以前、水源地の泥かきに行ったとき、休み時間などをつかって松の剪定をしました。まわりの人が『あなたは好きだね』と言うので『好きだよ』と言いました。好きでないという仕事はできません。いまは気候がよいのでいいです」松の葉をむしりながら話してくれます。

それが終わると、「刈りこみばさみ」を手

「このはさみの刃はタイコ。丸く刈る時ははさみを下まがりにして刈り、平らに刈る時には上むきにします。そうすればきれいに刈りとれます。」と話してくれました。

そばでは一人の婦人、刈りとられた小枝を集めています。交通量の多い道路端、ケガのないようにと「お気をつけて……」

とあいさつし、その場を去りました。

## むし暑いなかの草刈り

五月二日、矢の浦水源地の草刈り現場を訪ねました。

雨のあいまの晴天、日ざしがきつく、そのうえ急な登り坂。息がぎれました。現場は浄水池のある台地の。上。たどり着いた時はちょうど休憩時間。神社向きの石段のそばに二組に分かれていたのは作業の関係か。「ご苦労さまです」

と声をかけると、

「息がきれたでしょ」

とねぎらいの言葉がかえってきます。「今日は通

路のそばの草刈り。雨の降ったあとなので、土が湿っていて泥が眼鏡に散って曇り、作業がしにくい。それに急に暑くな

て、今日が一番暑いんじゃないですか」

「本格的な作業は十五日

からかかる予定です。ここは、急な坂で、そのうえ車もはいらないので

道具を持ちあげるのも大変です。水源地域全域をやる時は道具は小屋に納めておきます。全部やるには十人くらいで四、五日かかるでしょうね」この日は男三人、女二人でした。

「ここはハミが出ます。今日も南側のビワの木の下にうす黄色で斑点の所々にある「メートルくらい」の蛇が出ていました。むし暑いので蛇が出たのでしょ



写真をとらせ

てもらって辞去

するとき、

「ハミに気をつ

けて」

と声をかけてく

ださいました。

## ケガのないように

四月中旬、奥小路の大殿さんの家の修理現場を訪ねました。

「三日前からかかっています。今日は雨どいの修理」

お一人は脚立を立て一階のひさしにとひ受けを取り付ける作業、もう



一人の方はそれを留める銅線の切断作業中でした。

「家の床板が腐っていたので、昨日まではその取り替え。六畳二部屋、八畳一部屋でしたが、床板だけでなく、他にも傷んでいた所があったのでなおしました。」

「二階の『あんこ』(といの水を集めて下に流すところ)がつまっていたので、全部きれいにしました。一階のは、もとのといが傷んでいるので全部取り替えます」

上手の家の石垣との間の狭い所は脚立にのぼっての作業。

「足場のいる所なので、足場を組んだり二連梯子、脚立を使わなければなりません。ただ隧道道から御殿山道に抜ける道をバイクが通る時は梯子や脚立をのけるので面倒です」

作業の手を休めることなく話してくれました。

「お茶がはいりましたよ」

大殿さんが声をかけても、仕事の手をとめません。大殿さんから

「ほんまにようやってくれんさんで、ありがたいことです。新聞に書いてくれんさい」と頼まれました。

朝九時から午後四時までの仕事。



それが終わると事務局に寄り、翌日の作業の材料を注文して帰宅。  
「お怪我のないように」と声をかけて去りました。

## 松の支えをして喜ばれた

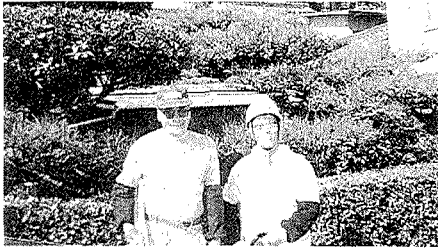
大段さんの現場を訪れたあと、事務局に寄ると、新しく事務局長になられた風呂井井さんが、  
「飛渡瀬の草刈りの現場に行きましよう」

と言ってくださり、車に乗せてもらって現場に行きましたが、すでに作業は終わって誰もいません。

帰る途中、鷺部の谷本さん宅の剪定作業が終わって、道具の片づけをしている一組がありました。早速インタビュー。

「今朝から樹木の剪定と植えこみの刈りこみ。松が下の植えこみをおさえていたので、頼まれてはいないが松の剪定をし、下に支えをあてて松をあげました。おばさんはとても喜んでくれました」

「刈りこみは機械を使ってやるので、そんなに大変ではありません。選挙の最中で、宣伝カーが通る度に『手をふってあげたら』と思って



## われら町を

ふりました。」  
「朝九時ごろから始め、ミカンの剪定もして三時ごろに終わりました」  
写真を撮ると、  
「仕事をしている格好の方がよいだろう」

### 今が花ざかり

西野 文三

私は四十四年間、船員として生活しておりました。人とのつきあいも限られたものでした。

しかし、退職後はこの江田島シルバー人材センター（平成六年四月入会）の仲間に入れていただき、新たにいろいろな仕事をさせてもらっています。例えば、草刈機、一輪車など、初めて使用するものばかりの連続の毎日で、時には仕事に慣れなくて、自分ながら嫌になることもありました。

今では、どの仕事もエンジョイしながら気持ちのいい汗を流しています。  
今が私の第二、あるいは第三の人生かもしれません。そして、私にとって一番大切な事は、人脈の広がったこと。これは大きな糧だと思っています。

これから多くの先輩方と頑張ります。

## 折にふれて思ふこと

たいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

### ふるさと秋月

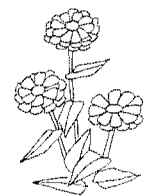
森田 利明

私は戦後秋月に引きあげ、五十年になります。子供の頃の思い出は神戸にあります。先頃の震災の状況は、戦中の戦災の街を思い出します。

私の人生の大半を過ごした秋月は南に面した温暖の地で、とくに夏の夜の呉湾の夜景の美しさはスバラシイものがあります。呉の山から昇る月の景色をぜひ見に来てください。

私は会社を定年退職後、昨年五月から皆さんの仲間入りをさせていただき、車の運転部門で頑張っています。誠心園デイサービス、中央公民館の入浴、秋月の保育園児の送迎などが主な仕事です。

お年寄や小さい園児を乗せての車の運転は非常に神経をつかいます。しかし、幼い子供やお年寄に役に立つことに喜びを感じています。



今後とも会員の皆様のご指導、ご援助をいただき、共に残る人生を頑張りたいと思いますので、よろしく願います。

## 我が故郷で経験を生かす

フルサト 石井 輝夫

昭和八年十一月一日に秋月で生まれました。生後二ヶ月たらずの時、父（警察官）の満州への転勤に伴い故郷を離れ約七年間海外生活をした。そして昭和十五年に帰国、神戸に住むことになる。終戦を挟んで七年間その神戸に在住後秋月に帰る。暫くして山口県宇部市に移り住み、農業、宇部鉄工所の社員と十二年間宇部市に居ました。

昭和三十九年に神戸に戻り高取タクシーに入社する事となり、つづいて同業の文化タクシーに移り、平成五年十一月迄およそ三十年間勤めて定年退職した。その間、神戸市医師会の入浴送迎車の運転もする事もありました。そして約半年後の平成六年六月に故郷に帰り住む事となる。

この頃、江田島シルバー人材センターが地域住民の為、そして会員相互の為に活動している事を聞きました。

そこで、自分の経験を生かす事が地域の人達に喜ばれると共に、自分もいきがいをを感じる生活の場と思い、本年四月に人会し、現在は誠心園のデイサービス車の運転をしておりまします。会員の皆様どうぞよろしく願います。



# 岩国シルバー人材センターを訪ねて

安全委員 山佐 勇



させ、納得させて協力と呼びかけるといふ姿勢を貫いており、その成果が現在四〇〇日という無災害記録を達成し、継続中である。以

上の様な説明があり、それについていろいろと意見交換を行った。我々江田島町シルバー人材センターでは昨年四件の災害が発生している。今年こそ災害〇件を目標に、日常作業において事務局安全担当委員が一体となって事故要因分析(ヒヤリ、ハット)の摘出、安全教育(安全意識の高揚)現場パトロールの強化(信頼関係意志の疎通)、活性化(良い仕事を早く楽に安全に)を図り、積極的に取り組み、会員が働く人生に安心して生きがいと喜びを感じるような環境づくりすることが無事故につながり、シルバー人材センターの発展に寄与するものである。御安全に!!

## 改選によるセンター役員紹介

五月三十一日の通常総会で理事及び監事の改選がありました。これに伴い、専門委員も変更がありましたのでお知らせします。

### ◎ 理事及び監事

理事長 山佐 一男  
副理事長 板垣 宝潤  
理事 吉田 道義

森下光太郎  
村井 義郎  
岡本 光子  
土手 二正  
山佐 勇  
山本 数美  
森 修一  
常任理事 風呂井 侃

### ◎ 専門委員

会員のみなさんが、センターの就業目的を達成し、効率的な事業運営が図られるよう、会員組織として、安全委員会、就業開拓委員会、広報委員会を設けています。

### 一、安全委員会

会員のみなさんが、就業上、事故なく、安全で働くことができるよう安全計画の策定などを行います。

山佐 勇(中郷)、森下光太郎(切串)、吉田道義(津久茂)、角川龍男(向側)、新久朝夫(小用)、宇根川徳夫(中郷)、角川伍助(事務局) 二、就業開拓委員会

町や企業、一般家庭からの受注促進の計画を行い、実施します。

山本数美(秋月)、小松 貢(秋月)、土手二正(切串)、山佐昭三(中郷)、村井義郎(鷺部)、稲生貞仁(小用)、下野一彦(切串)、森 邦彦(事務局)

### 三、広報委員会

センター事業を住民のみなさんに理解していただく広報活動、また、機関紙「シルバー江田島」の発行を行います。

岡本光子(江南)、小松 貢(秋月)、板垣宝潤(津久茂)、新本清一(小用)、森 修一(秋月)、下平修子(事務局)、下谷源蔵(宮ノ原)

## 講習会のお知らせ

七月一日から全国シルバー人材センター安全就業月間です。就業時には、安全点検を行い事故の発生はもとより、事故の不安を抱くような就業にならないよう努めましょう。

### 安全講習会

『作業中の災害時における応急処置』

一、日時 七月七日(金)午後三時  
二、江田島町文化センター 四階大ホール  
三、講師 江能広域消防本部救急隊員